

2001 (平成 13) 年 12 月 1 日 第 12 号

発行：(福) 十字の園本部署務局
理事長 平井 章

住所：〒431-1304
静岡県引佐郡細江町中川 7220-11
tel 053-439-9100
fax 053-437-1352

社会福祉法人 十字の園

ぶどうの木

(ヨハネ福音書 15章)



◆ 最も大いなるものは愛である ◆

御殿場十字の園 施設長 上野 貢一



新約聖書コリントの信徒への手紙 13 章は、「愛の賛歌」と言われる個所です。そこには愛について文章が多く載っています。「どんなに立派な行いをして、もし愛がなければ無に等しい」とあります。愛は、受け手が愛されていることを感じる事が基準です。得てして私たちの行為は自己満足になりがちです。その人を大切に思い、その人の存在そのものを喜ぶ。介護やケアプランの基本もこんな所にあたりします。施設では毎月「誕生祝いの日」があって、その人が生まれた月に予算の範囲内でユニットごと在宅サービス事業ごとに、プレゼントと職員の手作りカードをお渡ししています。その思い思いのカードに聖書から言葉を選びます。最近はこの「愛の賛歌」の個所から引用することが多くなりました。「最も大いなるものは愛である」愛は目には見えませんが、人と人とを完全に結ぶ帯なのです。人間の愛を突き抜けて神の愛に満ちた施設になることを願ってやみません。

『十字の園における福祉の創造』

～既に据えられている土台の上に～

理事長 平井 章



21世紀の十字の園大会（法人研修会）の主題を『十字の園における福祉の創造～既に据えられている土台の上に～』としました。大会目的の中には「これからの福祉は、法人や施設の理念と職員の質、サービスの質が問われます。その意味でも十字の園大会における法人全体の研修の開催は意義深いことです。基調講演、課題講演、各施設の研究発表を通して、職員全体で研鑽し、地域のニーズ、利用者のニーズに応えつつ、新しい十字の園を創造していきましょう。」と記しました。制度も法律もない中に始まった十字の園の働きは、老人福祉法の中で、昨年からは介護保険法の事業を運営してきました。時代が変わり、制度が変わったとしても、キリスト教精神に立つことは、十字の園の基本姿勢です。『イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。』（Iコリント3:11）

十字の園の機関紙「ぶどうの木」は、まず職員に読んでいただきたいと思っています。それは、十字の園の基本理念に立って働くことを望むからです。介護保険が始まって各施設の居宅サービス事業も増えて、11月現在で十字の園に従事する職員は、非常勤、登録ヘルパーを含めて336人になりました。来年4月に松崎十字の園が開設されると400人の大所帯になります。ある職員から「十字の園はどこまで大きくするつもりですか」と質問を受けたことがあります。一般的には、事業が拡大し発展することは健全に見えますが、大きくなることによって人間的な思いの強くなることを心配されたのでしょう。十字の園は10年毎に新しい施設が作られてきましたが、神様の命令で建てられてきたのです。キリスト教的には「み心（神の意志）によって建てられた」のです。

特養寮母の看護絵日記「夕暮れになっても光はある」の本の中で、御殿場十字の園の医師であった林富美子先生の文を紹介します。『老人が疎外され、恥をかかされ、自分はもう必要でないと知った時、その痛みを耐えかねて、自分の周囲に城壁を築いてしまうのです。これは痛みを覆う唯一の手段である防衛本能であって、蚕が繭をつくるように、自分の周囲を白い絹糸で覆ってしまうのです。そして繭の老人になってしまいます。このような老人に対して、世間は「ボケ老人」と嘲笑しますが、繭の中の老人はすべてを聞きわけています。その証拠に、このような老人にかぎって医師や寮母の人格、パーソナリティーに大変敏感であるからです。』

私たち職員の人格、パーソナリティーへの問いかけがあります。福祉人として自分はどうか。十字の園法人の理念は『人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。』です。覚えてください。

法人

待ちに待ったスズキワゴンR(車椅子送迎車)。

特派員 大谷 光宏

急激な在宅事業（ショートステイ、デイサービス、ホームヘルプサービス）分野の発展に伴い、車輛自体も不足しておりました。また、細く狭い道への対応、ご利用いただく方の玄関先まで送迎可能である、そんな軽自動車（車椅子送迎車）を望んでおりました。



浜松十字の園には10年をはるかに経過している車輛が数台あります。その数台は全てあちらこちらに大きなへこみがあったり、坂道ではヒーヒーと、真夏の暑～い日にエアコンをつければエンジンが停まってしまうこともしばしば。「中古でもいいから、1台だけでもいいから買い替えを」と思っていた矢先、幸運はめぐってきたのです。

スズキ関連労働組合連合会様よりワゴンRをいただきました。本当にありがとうございます。

今後、新車ワゴンRを十分活用させていただき、今以上の地域福祉発展と向上に努めたいと思います。

「駆け出し理事の記」

理事 古川 昭



理事、監事、評議員などという恐れ多いお仕事は、私には縁のない雲の上の偉い方がなさるものと思って居りました。

私は39年にわたる技術屋サラリーマンを定年まで勤めたあとで、思いがけず聖隷学圏の監事、また一昨年より十字の園の理事・評議員をお引受けすることになりました。

スズキに居た時に、長谷川保様からすすめられて電動車椅子を初めて世に出し、少しは社会福祉のお手伝いになったかなと考えておりましたが、実際に法人の理事会などに出席させて戴くうちに、理事長を初め責任を負って居られる方々の御仕事ぶりに触れ、今まで全く知らなかった教育や社会福祉法人の運営という新しい世界に、目を見張る思いを致しております。

単に組織の運営管理だけでなく、法令、補助金などの行政面、借入金や収支の経理面、地域との交流、施設の整備や拡充、人事面に至るまで、本当に大変なお仕事を、而も将来ヴィジョンと使命感、そして何よりも確固としたキリスト教信仰に立って、明るく精力的に進めておられる様子を拝見して、心強く思うと共に、大きな責任も感じさせられました。

毎回の理事会に出席する度に、又何か新しい計画があるのかと期待して、秘かに楽しみにしています。企業での経験や技術が、お役に立つかどうか判りませんが、できる限りお手伝いをさせて戴きたいと願っている次第です。

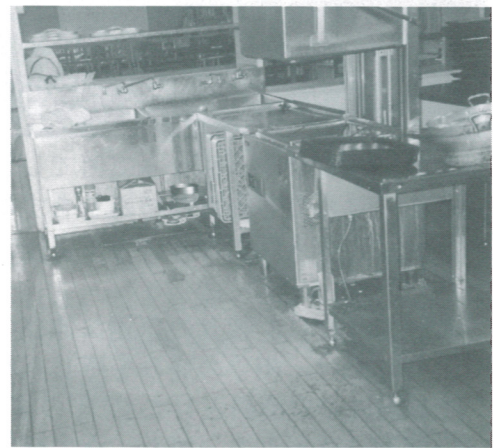
— 待望の『厨房改修工事』決定 —

伊豆高原十字の園 里見敏和

以前から懸案だった、厨房の改修工事が、社会福祉法人静岡県共同募金会へ補助金の申請をしたところ「財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団」様より231万円の助成がいただけることになりました。

厨房の現況は、老朽により壁・天井にしみやひびが入り、フローリング床は水回りを中心に腐食がひどく調理台や調理機器の一部が傾き始めています。そんな厨房でも職員たちは、あて木を使って補強したり、なんとか保持しながらセルフランチをはじめとした施設内の食事や配食サービスなど、工夫しながら食事サービスに努めております。今回の改修工事決定により、利用者の皆様へ更なる食事提供・充実の可能性が広がり、とても喜んでおります。

今後の予定としては、今年度予算の修繕費について補正を行ない、企画・入札を経て13年度事業の中で工事を行ないます。工事完了後には、皆様によみがえった厨房の姿を御報告出来ると思います。



浜松十字の園

哲 人



特派員 清水 実

「ボケ、痴呆老人」と呼ぶのはふさわしくないと言うことで、老人と係わりをもつ医療、福祉、知識人が知恵をめぐらし、このような高齢者を「アリス」と呼ぼうという新聞の記事を目にした。痴呆の症状を経験した老人が「まるで不思議の国のアリスになったかのようなだった」と話したことから名付けたそう。この善し悪しは別にして、「アリス」は女性の名、男性は「テレス」にしたらどうだろうか。痴呆老人こそ凡人には及びもつかない思考をし行動をする偉大な哲人「アリスとテレス」だ。

『十字の園大会』

伊豆高原にて開催

今年の十字の園大会は、11月15～16日の2日間にわたり伊豆高原で開催されました。伊東教会の藤田克哉牧師の開会礼拝に始まった今年の大会は、基調講演に鈴木フミ氏、課題講演に本間郁子氏をお招きして介護の現場に関わる職員にとって貴重な学びの場となりました。



十字の園・創立の原点に今一度立ち戻って

鈴木フミさんが、十字の園創立の心を熱く語られました。講師：鈴木フミ氏（初代理事長故鈴木生二氏の奥様＝看護婦として聖隷病院時代よりかかわる）

長い人生をくぐり抜け生きてきた入園者に対して、自分達の考えを押付けてはいないか？衣食住が充たされても、自分から望んできた所ではない場所、やむなく入園された人たちの不安、口数の少なくなった入園者の様子。そんな入園者の気持ちをよくよく、聴くことの大切さ。そして、老人福祉法制定にさかのぼり2年前に設立された十字の園が、施設運営の理念を定款に「一人一人の人格の尊重」とうたいキリスト教精神にのっとった、『設立の心の原点』がここにある事をあらためて知って欲しいと。

また、創設の中心を担ったハニ姉妹の心を胸に7名の職員と30床の特養としてスタートし、今日に至るまでに多くの入園者を迎えた関りを通じて話された。



誰もが普通の家族生活を基本に物事を考え、入園者に合わせた生活環境の気遣いが必要。平等とは、皆が同じことをする事でなく、その人にあった事をしてあげるのが平等の処遇であり心である。

「愛は、犠牲を喜びにかえる」ハニ姉妹の言葉がしめすとおり、老人の生きる場を考え、寝たきりの人からでも、何も話せない人からでも、彼らのチョットした微笑みから私達は、大きなものを何か与えられていると感じるもの。

マザーテレサの「幸せって何でしょう！」という言葉が紹介されました。「愛」の反対語は、「無関心」「見えても見えないふりをする」「相手の痛みを感じようとしない」「関わられるのに、関わろうとしない」人間にとって見えていても見つめられないことがある。

そして最後に、特養の急速な伸びの中で地域に密着した施設を目指し、常に原点に立ち戻っての対応を心がけ、相手の痛みを感じられる人に成長していただきたい！と投げかけられました。

聖隷病院の看護婦として17年の後、思いもよらぬ十字の園との関わりの中にいたと語るフミさんは、講演の終わりを「でも、今に感ずる、……これでよかった！」と静かに締めくくられました。

御殿場十字の園

真っ赤なりんご

特派員 安井和人

今から40年前、土曜学校へ通っていた小学校一年生は、訳も解らずに♪イレンチュヌベール ジェ～ネ・・・などと歌いながら、目の前にあるツリーに目は釘付けでした。そこには普段あまり食べたことのない真っ赤なりんごがぶら下がっていました。「会が終われば食べられる」の一心だったのでしょう。せいっぱい歌ったあとシスターが「一つだけ神に捧げましょう」と言いながら残りを皆に分けてくれました。美味しかった。本当に美味しくて半分はおばあちゃんにお土産にしたことを覚えているといいます。彼と神との出会いはりんごだったのでね。

課題講演 「特養ホームが変わるために」 (利用者本位のサービスへの転換)

講師：本間郁子氏

1948年生まれ。図書館情報大学卒業。

1992年 お茶ノ水女子大学研究生

特別養護老人ホームの調査研究活動

ボランティア活動、さわやか福祉財団ふれあい社会づくり

調査ボランティア、特養ホームを良くする市民の会代表



「**古い**」
を考える

年老いていくことはオムツをしていくこと (一事例)、という事実を目の当たりにして、「人間が老いることと歩む道」について考えるようになる。

基本的には特養に入らなくて済むために、と考えてはみても、高齢化社会、自分の老後を考えると、長寿になれば物理的に無理が生ずる。とすれば、特養に入らざるを得ない状況を受け止めることになる。であるならば、自分の人生をどのように過ごしたいか、どのような所 (施設) に住みたいか、自分が自分らしく生きるためには、住んでいる人が主体的になれなければいけない。そう考えて、特養について調べることをはじめた。

全国 240 箇所の特養について実際に調査してみて気づいたことは、

- ・施設間の格差がかなりあること
- ・(介護保険が始まって) 施設を利用者側から選べるようになったこと
- ・幸か不幸か施設の考え方で (自分の人生が) 決まってしまうこと

がわかり、やりなおしの利かない一度の人生が、運 (入所先) の良し悪しで決まってしまうことに深い憤りを覚えた。

サービス提供者、事業者、利用者は対等である、というのがどんな不満、いじめ、虐待があっても自分で訴えることのできない利用者の人権はいったい誰が守るのか。それは、結局事業者に依存するしか方法がない、ということを知り、利用者、家族の側に立った思いを調べ、守っていく仕組みを作らなければいけないと考えることになった。そこで立ち上げたのが「市民の会」である。

<事例を取り上げられ、解説いただいた>

これからのターミナルケアを考えると、痴呆の重度化に伴い、「人」と「生活環境」が同等となるくらい重要となってくるように、価値観も変化してきている。ただ、これが成り立っている根底には、職員の間人愛と時間の犠牲、ボランティア精神がある。職員に対しても、長く働ける環境と労働条件を確保しなければ、いいサービス、いい環境を受けられないことが解った。

職員として、知識や技術 (これは道具に過ぎない) を生かすべく、人間性を磨いていただきたい。問題意識がなければ感性は生まれない、ならば人間性の形成は不可能。

「ケアとは、悲しみの気持ちを共有することである」

伊豆高原十字の園

「解禁！そして…うまいが一番！！」

特派員 大島 寛子

赤ら顔で少し傾き車椅子をこぐ○○さん、念願の晩酌に加え食後の一服だ！ 至福の喜びを満面の笑顔で「うまかった！」と一言。その笑顔がうれしい！！

10/25 より解禁となった晩酌に、それぞれのマイコップ・マイ一升瓶が準備され、目を三日月にして皆さん喜んでおられました。そのうち誰かが、夜な夜な一升瓶片手にチビチビ飲んでたりして…！？ その時は一声掛けて下さーい。



松崎十字の園情報

オリーブの木

松崎十字の園 準備室々長 三條 洋二

花とロマンの里の松崎に建設される松崎十字の園は、利用者の方々や職員、地域の皆様にとって過ごし易い環境を考えています。その中で建物の周りの植栽計画については、静岡県グリーンバンクのご援助により行われます。「やすらぎの森」をコンセプトにネムノキやウバメガシ、クスノキなどを配置する計画です。その際、植えられる木々の希望とする種類としてオリーブの木をお願い致しました。それは、私の個人的な思いになるのですが・・・。

昨年、御殿場十字の園で行われました十字の園大会においてユニットケアについて講演をしてくださった、きのこ老人保健施設副施設長の武田和典氏に、松崎十字の園の建設計画について、いろいろとアドバイスを頂く機会があり、まさしくその話の終わりごろに、武田先生が「新聞あるかな？」と突然言われ、フロントで借りお渡しすると、ある記事を探し始められました。それは、瀬戸内海のゴミ問題で有名になった豊島で、瀬戸内海の緑化をめざすオリーブ基金（呼びかけ人 中坊公平氏、安藤忠雄氏）が発足し第一回記念植樹大会が行われた記事でした。そして次の日、武田先生の講演で豊島のことに触れたとき、少し声をつまらせられた様子がありました。私は、その様子を見て武田先生がこれまでに障害者、高齢者、精神病患者など一般社会では、片隅に追いやられていた人たちと産業廃棄物をダブらせておられたのかと思ったのです。産業廃棄物をゴミ扱いせずリサイクルしていく、障害者の方々も町の片隅に追いやらないで地域の人々と社会の一員として生活できる環境を作る、その必要があることを強く思いました。平成14年に開所される松崎十字の園は、松崎町の土地の提供で町の中心地に建設されます。高齢者、障害者を片隅に追いやらないという松崎町の意志を大切にしたいということで、シンボルツリーとしてオリーブの木を植えたいと思ったのです。

10月の建設打合せ会議で、シンボルツリーとしてオリーブを植えたいとの話をしましたら、松崎町の山本健康福祉課長より、町内でオリーブの木を栽培されている石部オリーブ振興会の高橋周蔵氏をご紹介をいただき、高橋氏より快くオリーブの木の提供をしてくださることになりました。



聖書にもノアの箱舟の記述の中でオリーブが出てきますし、ギリシャ神話でも平和と美の象徴として書かれています。松崎十字の園の中でオリーブの実が成るようにすくすくと育てて行きたいと思えます。

『あなたがたの中で病気の人は、教会の長老を招いて、
主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。』
(ヤコブの手紙 5:14)

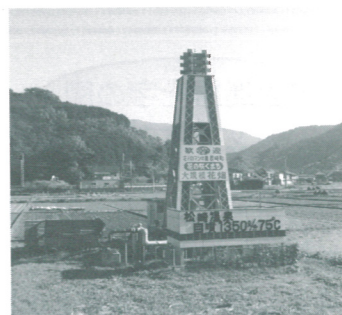
松崎十字の園

みんなで  温泉を引きたい!!

温泉基金募集中

松崎といえば、やっぱり温泉でしょう～！ 泉質は含重曹芒硝石膏で、美肌効果があることから“化粧の湯”として知られてきたのです。それって“若返りの湯”ってことかしら!? リウマチ・痛風・神経痛・皮フ病にも効く。飲用では、胆石症・高血圧・動脈硬化症・糖尿病にいいとか…。「そんな温泉に入りた～い。」と思ったら、建設中の施設の横に、なんとこの温泉の本管があるではないか！ 是非、温泉を引きたい!!

只今、温泉の権利獲得に向けて、寄付金を募らせて頂いています。ヘルスセンターとはいませんが、休憩室など用意し、遊びに来られるのを、お待ちしておりますので、ご協力お願い致します。



温泉の鉱油

サポーター (第10回)

細江デイサービスセンター



- ① 名前 (役職名)
- ② マイブームを教えてください。
- ③ 「この仕事の〇〇を△△と思う。」 〇〇と△△に当てはまる言葉をどうぞ。
- ④ これからやりたいこと。



森島信幸 橋本直也
鈴木晶子

- ① 鈴木 晶子 (主任・看護婦)
- ② 煮物・漬物
- ③ この仕事のはまり方を運命の出会いと思う。(しかない・・・)
- ④ かわいいおばあさんになる準備。

- ① 森島 信幸 (相談員)
- ② ラーメン
- ③ 奥の深さを毎日思い知らされている今日この頃です。
- ④ 世界一周旅行 (豪華客船で・・・)

- ① 橋本 直也 (介護士)
- ② 日帰り温泉
- ③ 介護保険の部分简单にして欲しいと思う。
- ④ カウンターで寿司を腹いっぱい食べたい。

いるは温泉探検記 その③



御殿場十字の園 安井和人

伊豆は「湯出づる」から転じたそう。なるほど、いたるところに湯がわいている。半島の入り口にも既に、熱海や伊東 (伊豆高原十字の園所在地)、伊豆長岡、修善寺と世に聞こえる名湯がひかえていて、なかなか奥まではいけない。一泊ン万円の旅もいいが、チョット雲隠れして共同湯でひとつかり。熱海の駅裏のおでんやでイッパイやって、何食わぬ顔で帰ってくるのも、これはこれで結構オツなものである。

穴場情報その一。中伊豆の入り口、三島の町はずれの竹倉温泉。のんびりした郊外の住宅地に三軒ばかりの宿がある。

♪お湯が出た出た竹倉に 神の恵みし赤き湯が
ぢいちゃんばあちゃん又おいて 腰の痛みによくきくよ♪

炭坑節のかえ歌が額入りでかかっている。休憩は大広間。「座布団をまくらに寝ないでください」そんな貼り紙の下で、座布団を枕にゴロリとひとねむり。お天気がいいと真正面にドッカと富士山が見える。

アドナイ館

雨漏り解消と乙女心の関係

特派員 鈴木晶子

アドナイ館北側の壁がお化粧直しをしました。これで大雨になっても雨漏りの心配はいりません。削られたり塗られたり・・・きれいになるのも大仕事ですね。

ひっぱりたり、はたいたりしても、確実に増える目尻のカラスの足跡。「〇〇組に工事してもらったらきれいになるかしら？」(なるわけないけど) こんな冗談を言ったら、「刻まれた皺は人生の年輪。」(なるほど) 「外見より内面を磨きなさい。」(ごもっとも) 乙女心は複雑です。

人事往来 喜び・悲しみ

<就職> †どうぞよろしくお願ひします†

☆御殿場十字の園

岩田かな (介護職) 10/1

☆伊豆高原十字の園

浅川 里絵 (看護婦) 8/1

<退職> †ほんとうにご苦勞様でした†

☆御殿場十字の園

山本 志保 (介護職) 8/31

☆浜松十字の園

村井 眞佐 (介護職) 8/31

山本 幸代 (介護職) 8/31

☆伊豆高原十字の園

村上美代子 (介護士) 4/30

山口 千波 (介護士) 5/31

佐藤 節子 (デイサービス看護婦) 8/30

藤原 裕美 (調理員) 10/31

<結婚・出産> †神様の祝福を祈ります†

☆御殿場十字の園

宮島 克利 (相談員) 6/30

中川 玲花 (介護職) 7/15 (旧姓 曾我)

中村久美子 (介護職) 9/30 (旧姓 杉山)

☆浜松十字の園

若森 香織 (介護職) 11/3 (旧姓 杉山)

西道 慶子 (看護職) 11/18 (旧姓 高林)

倉田 眞樹 (事務) 12/8 (旧姓 河村)

皆様の暖かい御支援をお待ちしております!!

〒431-1304 静岡県引佐郡細江町中川 7220-11

社会福祉法人 十字の園

理事長 平井 章

銀行振替 静岡銀行細江支店 普通 0015345

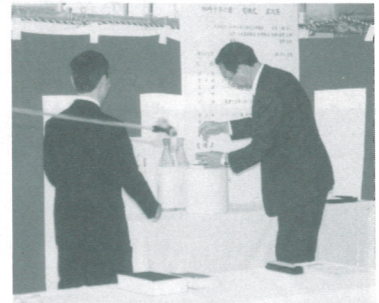


主の御降誕を祝い あわせて
新年のお慶びを申し上げます。

速報! 松崎でにぎやかに餅投げ

松崎十字の園 定礎式にて

松崎十字の園建設現場で12月4日(火)関係者のみなさまの出席を頂き、定礎式が行われました。朝からの雨空も式の始まる頃には青空がのぞき、穏やかな日和となった会場からは、「さすが! 十字の園」の声がきかれました。



松崎教会・星野牧師の司式により「心を高く上げよ」の讃美歌21-18で始められた礼拝に続いた定礎式では、夕日の美しい松崎にピッタリな鈴木唯男氏の書による言葉「夕暮れになっても光がある」が披露され、理事長、森惣二松崎町長、三条洋二松崎準備室長、星野牧師の手で聖書と讃美歌と共に施設玄関わきの通路床に納められました。この後、会場では、お祝い



の餅投げがにぎやかに行われ、工事で日頃ご迷惑をお掛けしている近隣のみなさまも大勢お集まり下さり、共にお祝いに参加していただきました。 法人 伊藤三郎

<あともがき>

21世紀幕開けの年もはや暮れようとしています。

あつという間の1年でしたが、世界では思いがけない事が勃発し……、又身近なところでは健康保険の3割自己負担(辛~い)の話も出てきたり……。

しかし、12月1日、皇太子ご夫妻には内親王のご誕生という明るいニュースが伝わり日本中が湧き上がりました!!!

2002年はどんな年になるのでしょうか……。

状況はともあれ、いたわりと愛をもって日々の生活を歩みたいものです。 (編集者一同)